

柏屋町文化財調査報告書第45集

# 原町平原遺跡

2019

柏屋町教育委員会



遺跡全景(西から)

## はじめに

本書は共同住宅建築工事に伴い、平成 29 年度に柏屋町教育委員会が実施した柏屋町原町に所在する原町平原遺跡の発掘調査記録です。

本遺跡はJR 原町駅の近隣に位置しており、近代より開発が行われていた地域にあたりますが、開発により破壊されず一部遺跡が残っておりました。今回の調査で、1 m を超える柱穴で構成される建物主軸方位が正方位の掘立柱建物を確認し、特筆すべき発見となりました。本遺跡は官衙の遺跡と考えられ、槽屋郡衙である阿恵遺跡との関連が指摘されます。しかしながら、遺跡全体のうちのわずかな範囲を調査したに過ぎず、遺跡の全容は今後の周辺地域の調査によって次第に明らかになっていくことと思います。本書が郷土の歴史に誇りを持ち、文化財に対する理解を深める上で広く活用されるとともに、研究資料としても貢献できれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にご協力いただきました関係者の方々をはじめ、近隣住民の皆様に心から謝意を表します。

平成 31 年 3 月 29 日  
柏屋町教育委員会  
教育長 西村 久朝

## 目次

### 2 経過・位置と環境

- 2 調査に至る経過
- 2 調査体制
- 2 地理的環境
- 3 歴史的環境

### 4 調査成果

- 4 調査概要
- 4 掘立柱建物
- 8 おわりに

### 9 図 版

発行	柏屋町教育委員会
調査起因	共同住宅建築
現地調査	平成 29 年 7 月 24 日～平成 29 年 8 月 18 日
整理調査	平成 30 年 5 月 1 日～平成 31 年 3 月 29 日
使用方位	国土地理院第 II 系(世界測地系)
遺構実測	西垣彰博、高橋幸作、福島日出海 朝原泰介
遺構撮影	西垣彰博、高橋幸作
製図・執筆	高橋幸作
本書に関わる遺物・記録類は、柏屋町立歴史資料館にて収蔵・管理し、公開する予定である。	

# 経過・位置と環境

本遺跡の西約800mの地点に糟屋都街が発見された阿恵遺跡が所在する。標高は本遺跡が9mほど高く、地理的高所に遺跡が営まれる。

## 調査に至る経過

原町平原遺跡の調査は、福岡県糟屋郡柏原町原町一丁目2124-4において、平成29年6月8日に、共同住宅建築工事に伴う埋蔵文化財事前審査願書が提出されたことに起因する。当該計画地は周知の埋蔵文化財保護地である作原中尾遺跡に隣接しており、同年6月23日、7月5日に試掘調査を実施したところ、現表土下約0.4mに古代の柱穴を確認した。この結果に基づき協議を重ねたが、基礎工事による遺跡の破壊が免れないため、記録保存のため発掘調査実施後に建築工事を着手することとなった。調査は平成29年7月24日～平成29年8月18日の期間において実施した。報告書作成に係る遺物整理作業は、平成30年5月1日～平成31年3月29日で実施した。出土遺物及び図面・写真等の記録類は柏原町立歴史資料館にて保管している。

また、柏原産株式会社をはじめ、地域住民の皆さまには、調査の主旨にご理解をいただきとともに、多大なご協力を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。

## 調査体制

平成29年度(発掘調査)  
調査主体 柏原町教育委員会  
教育長 西村久朝  
社会教育課長 新宅信久  
社会教育課文化財係主幹 西垣彰博  
同係主事 高橋幸作(調査担当)  
同係嘱託職員 朝原泰介、福島日出海、  
毛利須寿代

平成30年度(報告書作成)

調査主体 柏原町教育委員会

教育長 西村久朝

社会教育課長 新宅信久

社会教育課文化財係主幹 西垣彰博

同係主事 高橋幸作(報告書担当)

同係嘱託職員 朝原泰介、福島日出海、

毛利須寿代

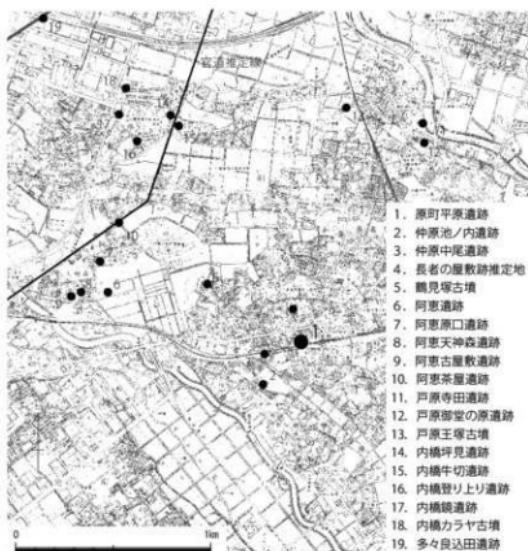
ある。

柏原平野の西は博多湾に面し、南側は太宰府市の四王寺山から伸びる月隈丘陵によって福岡平野と区分される。東側の三郡山系、犬鳴山系を源とする3本の河川が平野を貫流し、北から多々良川、須恵川、宇美川の順で博多湾に注いでいるが、山地から舌上に派生する丘陵が多く伸びているため、沖積地は河川流域に限られている。また、平野の北側には立花山系があり、博多湾に面して、周りを山地に囲まれた小さな平野である。

本遺跡は柏原平野のほぼ中央に位置し、三郡山系から伸びる微高地に立地する。須恵川までの距離は約400m、標高は16m程度である。

## 地理的環境

福岡県糟屋郡柏原町は、福岡市東に隣接し、柏原平野の中央に位置している。町域は14.13km<sup>2</sup>と小さく平坦な地形で



第1図 原町平原遺跡周辺図 (1/25000)

## 歴史的環境

柏原町は江辻遺跡をはじめとして縄文時代から遺跡が確認され、弥生時代になると内橋鏡遺跡(17)や辻畠遺跡、新大間池遺跡などで縄文層が発見される。

古墳時代になると柏原町では最初に戸原王塚古墳(13)、その後内橋カラヤ古墳(18)が築造される。戸原王塚古墳は福岡県内でも最古期の古墳になると考えられ、その価値は重要である。当該期の集落跡はまだ確認されていない。

その後、古墳時代中・後期になると、集落跡が確認され始める。仲原沖ノ内遺跡(2)や阿恵道跡(6)、阿恵天神森遺跡(8)、阿恵古屋敷遺跡(9)などで5世紀後半から6世紀前半頃の集落跡が散見される。古墳では、内構登り上り道跡(16)で5世紀後半での円筒埴輪が出土しており、近隣にその時期の古墳があつたと推察される。その後、全長80m級の前方後円墳である鶴見塚古墳(5)が築造される。「日本書紀」によると、528年磐井の子である葛子が、磐井の亂に連座した罪を免れるため、糟屋屯倉を献上したとされる。比定地については、古賀市鹿部田渕遺跡が候補地のひとつに挙げられているが、鶴見塚古墳は埴丘規模や石室構造等が那津官家の管掌者の墓ともいわれる福岡市の東光寺刻塚古墳と共に通する部分が多く、箱崎の内海から須恵川を週した場所に位置する立地も非常に示唆的である。この時代の拠点集落としては戸原寺遺跡(11)が該当する。倉庫群・戸原御堂の原遺跡(12)を有しており、遺跡内からは幅約8mの2段掘りの大溝を検出し、最下層から防蟻間に開通する本製品・柱の腕木が出土した。また、鐵冶関連遺構も出土しており、手工業技術者を抱えていた豪族の存在が想起される。

官衙の遺跡では飛鳥時代から奈良時代にかけての糟屋郡の役所跡が発見された阿恵道跡(6)が所在する。阿恵道跡は政庁、正倉、古代道路遺構が確認でき、古代地方官衙の全容が判明する貴重な遺跡である。また、7世紀後半の評段階の遺物が出土しており、京都妙心寺の梵鐘に名前の残る「糟屋評造春米連廣國」が政務をとった遺跡である。阿恵道跡の政庁と方位が近似する孤立柱建物は阿恵原口遺跡(7)でも確認される。

古代道路関連では、阿恵道跡の古代道

路遺構と直交する形で古代官道(大路)が推定されているが、確認調査により阿恵茶屋遺跡(10)で官道の南側側溝と思われる遺構が検出され、また別の確認調査により北側の側溝も確認されている。

官道推定線の延長上に夷守駅とみられる内橋坪見遺跡(14)が所在する。大宰府式瓦甃や甃部分に赤色顔料が付着した軒平瓦、白色土などが出土し、近隣に所在する内橋牛切遺跡(15)からは横板組式井戸が発見されており、格式の高い建物の存在が想定される。

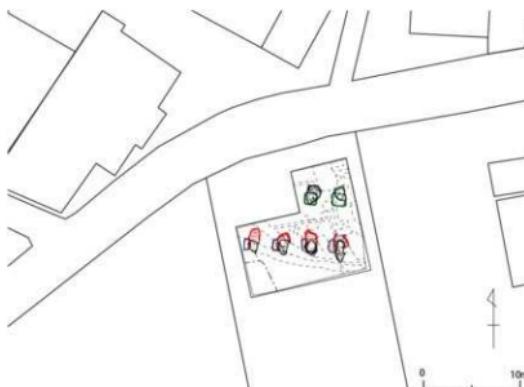
本道跡周辺では、西約100mの地点に仲原中尾遺跡(3)が所在する。確認調査によりN-86°-Wの正方位をとる建

物跡が確認されている。本道跡で発見された建物群も正方位であり、関連が想起される。

柏原町は上記のように、古代の手工業技術者集団の存在や、糟屋郡の役所跡、古代官道、駅家など、公的な性格の遺跡が多く所在する。官道に見られる陸路の交通の要衝であったと考えられ、また多々良川、須恵川、宇美川の3本の河川が通っており、河川交通も栄えていたと推察される。近隣には港湾施設と考えられる多々良込田遺跡(19)も所在し、海上交通も想定される。このように、交通の要衝として重要な地域であったと考えられる。



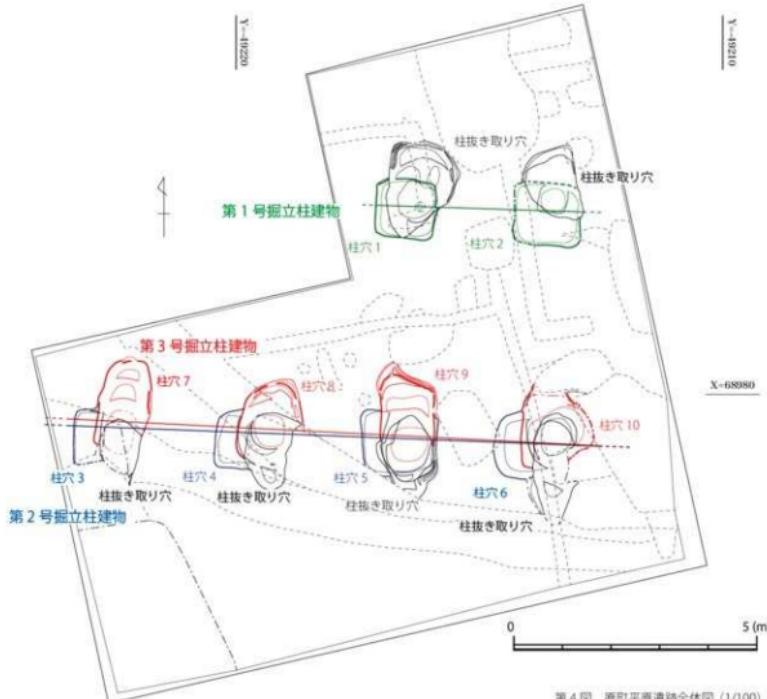
第2回 原町平原遺跡周辺図(1947年米軍撮影の航空写真)



第3回 原町平原遺跡周辺図(1/500)

# 調査成果

掘立柱建物を3棟確認した。建物主軸方位が正方位をとり、柱穴は方形で1mを超える。遺物は柱穴掘方より土師器が出上したが、細片であり、図示しえなかった。



第4図 原町平原遺跡全体図 (1/100)

## 調査概要

試掘調査により調査地の南側はカクランや地山削平により遺構が残っていないと判断し(図版2～5)、共同住宅建築範囲で遺構の残る北側のみを調査対象とした。しかしながら、本調査の結果、柱穴の想定よりも深く掘られており、調査対象外とした南側周辺にも遺構が残っている可能性がある。今後の調査に慎重を

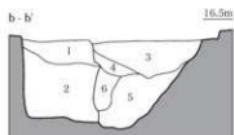
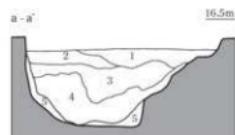
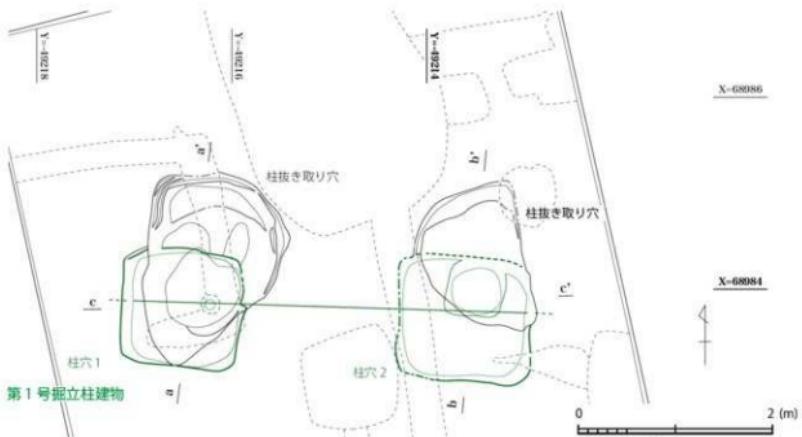
期することとなった。

今回の調査では正方位をとる東西棟の掘立柱建物を3棟確認した。第1号掘立柱建物と第2号掘立柱建物は柱穴形状が方形を呈している。また、柱穴掘方の筋が通っていることから、同時期か近い時期に建てられたと考えられる。その後、第2号掘立柱建物を壊して第3号掘立柱建物が建てられる。第3号掘立柱建物の柱穴形状は南北に長い方形である。遺物は細片のみの出土であり、時期

比定が困難なため、第1号掘立柱建物と第3号掘立柱建物が同時併存したかは判断できない。

## 掘立柱建物

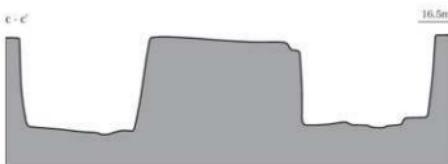
第1号掘立柱建物と第2号掘立柱建物は柱穴形態、建物方位が近似し、建物間の柱間間隔も4.8mであり、同一建物



- 柱抜き取り穴 に赤褐色砂質土 (SYR6/4) に、  
に赤褐色土 (7SYR5/4)。褐色土ブロック  
A(2SYR6/6)A1、明褐色土ブロック (10YR7/6)  
(B) 少量を含む
- 柱抜き取り穴 に赤褐色土 (SYR5/4) に A、B  
を多く含む
- 柱抜き取り穴 に赤褐色土 (SYR4/4) に A、B  
を含む しまり弱い
- 柱抜き取り穴 AとBに赤褐色土 (SYR4/4)  
を少量含む しまり弱い
- 掘方 に赤褐色土 (SYR6/4) に A、B を多く含む

- 掘方 に赤褐色粘質土 (7SYR8/1) に、灰白色粘  
質土 (7SYR8/1)A、赤色粘土 (10R5/8)B、  
明褐色粘質土 (10YR7/6)C が少量混じる
- 掘方 灰色粘質土 (7SYR6/8) に A,B,C がブロック  
状に混じる
- 柱抜き取り穴 に赤褐色砂質土 (SYR5/4)
- 柱抜き取り穴 に赤褐色粘質土 (SYR4/3) に  
A、B、C の細かいブロックが混じる しまり弱い
- 柱抜き取り穴 に赤褐色砂質土 (SYR4/3) に  
A、B、C の大きなブロックが混じる しまり弱い
- 柱抜き取り穴 赤褐色粘質土 (SYR3/6) に A、  
B、C が混ざる しまり弱い

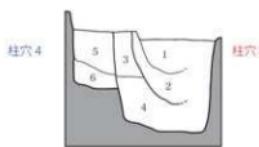
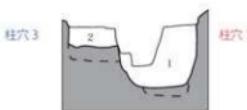
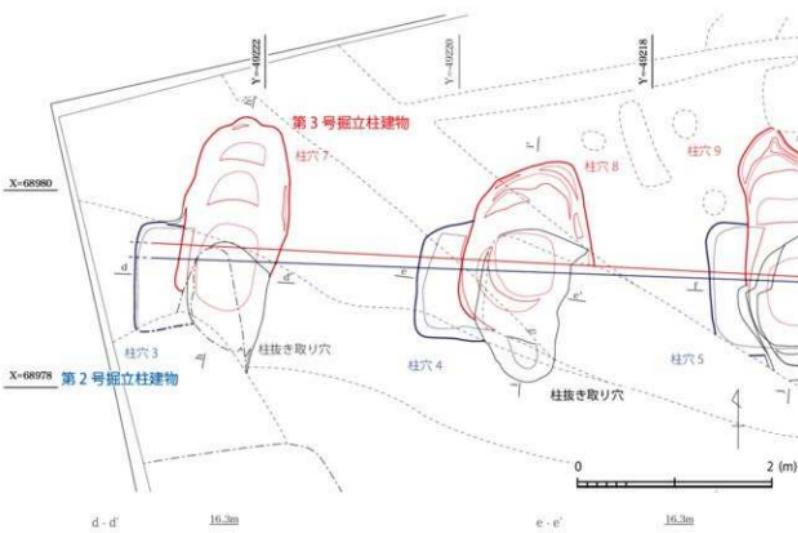
地山 A、B、C の混合帶



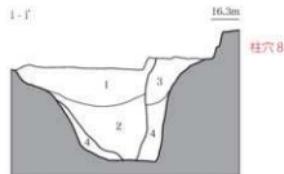
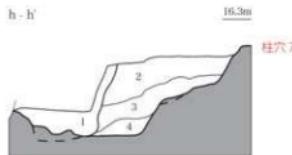
第5図 第1号掘立柱建物平面図、土層図、断面図（1/50）

とも考えられるが、以下の理由により別  
な建物を構成すると捉える。

第1号掘立柱建物のみ柱抜き取り穴  
を検出し、第2号掘立柱建物では確認  
されなかった。また、第3号掘立柱建  
物は第2号掘立柱建物の建替えによ  
る所産と考えられ、第1号掘立柱建物  
の位置に第3号掘立柱建物の柱穴が存在  
しないことから、第1号掘立柱建物と第2  
号掘立柱建物群は同一建物ではないと考  
えられる。それに加えて、第3号掘立  
柱建物は北側が2段掘りとなっており、  
北側から柱を入れ込んだと考えられるた

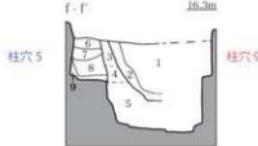
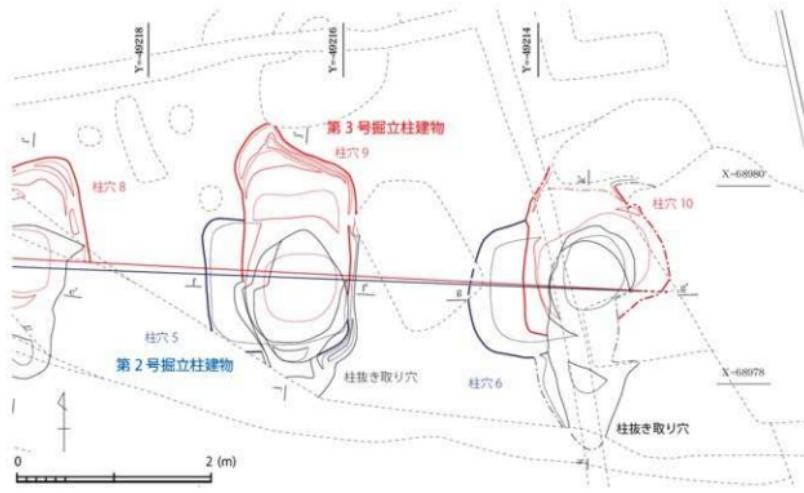


1. 柱穴 7 柱抜取の穴 h-h' 1層
2. 柱穴 3 桩方 に赤い褐色粘質土(7.5YR5/4)に赤色粘質土(10R5-8)(A)と明黃褐色粘質土(10YR5/8)がブロック状に混じる
- 地山 褐色粘質土(7.5YR6/6), 灰白色粘質土(7.5YR8/1), 褐色粘質土(2.5YR6/8)の混合土
- 柱穴 3
- 柱穴 7
- 柱穴 4
- 柱穴 8

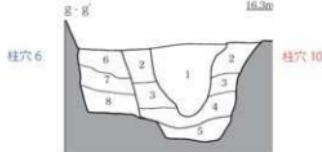


1. 柱抜取の穴 褐色粘質土(10YR4/6)に赤褐色粘質土(10R4/8)(A), 明赤褐色粘質土(10R7/1)(B), 明黃褐色粘質土(2.5YR6/8)が少量混じる
2. 桩方 明褐色粘質土(7.5YR5/8)に A と B, C が少量混じる。
3. 桩方 褐褐色粘質土(10YR5/8)に A, B が多量に, C が少量混じる
4. 桩方 明赤褐色粘質土(10YR4/6)に A, B, C が少量混じる地山 褐色粘質土(7.5YR6/6), 灰白色粘質土(7.5YR8/1), 褐色粘質土(2.5YR6/8)の混合土
- 柱穴 7
- 柱穴 8

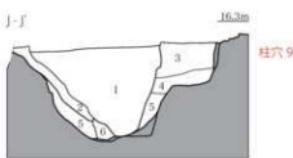
第6図 第2号・第3号掘立柱建物西側平面図、土層図(1/50)



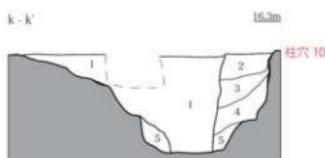
1. 柱穴 9 桩拔取り穴 j-j' 1層
2. 柱穴 5 桩拔取り穴 j-j' 2層
3. 柱穴 9 壁方 j-j' 3層
4. 柱穴 9 壁方 j-j' 4層
5. 柱穴 9 壁方 j-j' 5層
6. 柱穴 5 壁方 明褐色粘質土 (7.5YR5/6) に赤褐色粘質土 (10Y5/8)(A) を少量と/or 黄褐色粘質土 (10YR5/8)(B) をブロック状に含む
7. 柱穴 5 壁方 黄褐色粘質土 (10Y5/6) に A、B を少量ずつ ブロック状に含む
8. 柱穴 5 壁方 明赤褐色粘質土 (7.5YR6/6) に褐色粘質土 (2.5YR6/8) と B をブロック状に含む
9. 柱穴 5 壁方 に赤褐色粘質土 (2.5YR6/4) に赤褐色粘質土 (2.5YR4/8) が少量まだら状に含まれる



1. 柱穴 10 桩拔取り穴 k-k' 1層
2. 柱穴 10 壁方 k-k' 2層
3. 柱穴 10 壁方 k-k' 3層
4. 柱穴 10 壁方 k-k' 4層
5. 柱穴 10 壁方 k-k' 5層
6. 柱穴 6 壁方 棕褐色粘質土 (7.5YR5/6) (A) と赤褐色粘質土 (2.5YR4/6) (B) がブロック状に混じる
7. 柱穴 6 壁方 明赤褐色粘質土 (7.5YR6/6) に A、B が少量混じる
8. 柱穴 6 壁方 に赤褐色粘質土 (10Y5/4) に A が少量混じる



1. 柱穴 9 壁方 明褐色粘質土 (7.5YR5/6) に、明黃褐色粘質土 (10YR7/6)(A) と褐色小礫 (7.5YR7/6) をブロック状に含む
2. 柱穴 9 壁方 棕褐色粘質土 (7.5YR6/8)(B) を少量含む
3. 壁方 に赤褐色粘質土 (7.5YR6/4) に A をブロックで含む
4. 壁方 に赤褐色粘質土 (7.5YR6/4) に A と B をブロック状に含む
5. 壁方 明褐色粘質土 (7.5YR5/6) に A と B を含む
6. 壁方 赤褐色土 (5YR4/6) しよりが弱く、ぼぼそする



1. 柱穴 10 壁方 に赤褐色粘質土 (5YR5/6) に明赤褐色粘質土 (2.5YR5/6)(A)、黃褐色粘土 (10YR7/6)(B) の小ブロックを含む
2. 壁方 棕褐色粘質土 (5YR6/8) に A と B をブロックで含む
3. 壁方 明赤褐色粘質土 (5YR5/6) に A、B を少量含む
4. 壁方 黄褐色粘土 (5YR6/8) に A、B を少量含む
5. 壁方 明赤褐色粘質土 (5YR5/6) に B を少量含む

第7回 第2号・第3号掘立柱建物東側平面図、土堀図(1/50)

め、第2号掘立柱建物、第3号掘立柱建物の対応する側柱の柱穴は南側に位置すると想定される。以上のことから、第1号掘立柱建物と第2号掘立柱建物それぞれ異なる建物と想定して報告する。

#### 第1号掘立柱建物（第5図）

第1号掘立柱建物は調査地の北側で2基の柱穴を検出した。建物は東西棟と考えられ、調査区外へとのびる。柱穴1は南北約1.2m×東西1.2m、深さ約90cmを測る。基底部標高は約15.4m。柱痕跡は抜き取りにより消失しているが、柱のあたりが残る（P5参照）。柱穴2は南北1.2m×東西1.3m、深さ約90cm。基底部の高さは約15.4m。柱痕跡は抜き取りにより消失する。柱穴1、2とともに柱穴形状は方形を呈し、建物の主軸方位はN-88°Wと正方位をとる。柱間隔は約2.7m。柱穴2掘方より土師器が出土したが、細片のため図示しない。

#### 第2号掘立柱建物（第6図、第7図）

第2号掘立柱建物は調査地の南側で4基の柱穴を検出した。建物は東西棟と考えられ、調査区外へとのびる。柱穴6より東側の柱穴は調査区内で確認できた可能性はあるがカクランと重複しているため、不明である。建物の各柱穴東側は、後述する第3号掘立柱建物に壊されており、詳細は不明だが、柱穴5で掘方の東側をわずかに確認できた。柱穴5は南北約1.3m×東西約1.4mを測り、他の柱穴も同等の大ささと考えられる。残存する深さは柱穴3約20cm、柱穴4が約60cm、柱穴5が約40cm、柱穴6が約60cmである。基底部標高は柱穴3と柱穴5が約15.3m、柱穴4と柱穴5が約15.6m。柱穴形状は方形を呈し、建物の主軸方位はN-88°Wであり、正方位をとる建物配置となっている。柱間隔は第3号掘立柱建物に壊されており、判然としないが、それぞれ約3mと想定される。柱穴4掘方、柱穴5掘方、柱穴9掘方、柱穴6柱抜取り穴から土師器が出土したが、細片のため図示しない。

#### 第3号掘立柱建物（第6図、第7図）

第3号掘立柱建物は調査地の南側で4基の柱穴を確認した。第3号掘立柱建物は第2号掘立柱建物を壊して建てられる。建物は東西棟であり、調査区外へ

とのびる。柱穴7は南北約1.7m×東西約1.1m、深さ約90cm。柱穴8は南北約1.6m×東西約1.1m、深さ約90cm。柱穴9は南北約1.7m×東西約1.1m、深さ約90cm。柱穴10は南北約1.7m×東西約1.1m、深さ約1mを確認した。基底部標高は柱穴7が約15.2m、柱穴8が約14.9m、柱穴9が約15.1m、柱穴10が約15.0mである。柱穴は南北に長い方形を呈し、南側ははっきりとした角をもつが、柱穴の北側角輪郭は丸くなっている。柱穴の北側は2段掘りとなつておらず、北側から柱を入れ込んだと推察される。柱の抜き取りは土層の状況により、南側にむかって柱を抜いたと考えられる。建物の主軸方位はN-87°Wであり、正方位をとる建物である。柱間隔は抜き取りにより判然としないが、それぞれ約3mと想定される。出土土器類はない。

物から礎石建物へと建て替えられたと推察される。SD1から瓦が発見されていることから、8世紀中ごろを境に官衙施設が西偏する掘立柱建物から正方位の礎石建物へと変化したと考えられる。

柏原町である阿恵遺跡では、7世紀後半から8世紀前半代に位置付けられる政府と、7世紀後半から8世紀後半まで存続する正倉群が発見されている（註3）。政府は約10°～約20°西偏しており、同一の方位、造営尺の正倉も確認されている。正方位をとる正倉群も発見されるが、この正倉群に対応する政府は検出されていない。これは、8世紀後半まで正倉は阿恵遺跡内に存続するが、政府は別の地に移転したと判断される。

8世紀中ごろを境に正方位をとらない遺構配置を正方位へと変化させる官衙の様相が内構坪見遺跡や阿恵遺跡の事例で見られた。本遺跡は、掘立柱建物の主軸方位が正方位をとり、1mを越える方形の柱穴で構成されていることから、官衙の遺跡と考えられる。阿恵遺跡で8世紀半代に位置付けられる正倉と近似性が高く、郡衙の候補地として有力な遺跡である。本遺跡の西約200mの位置で、試掘調査により仲原中尾遺跡が確認され、N-86°Wの正方位をとる掘立柱建物を検出しており（註4）、本遺跡の付随施設の可能性がある。

このように本遺跡周辺には正方位をとる遺構が確認されており、郡衙の範囲が広範囲と想定され、周辺に遺跡広がっていたと考えられる。今回の調査では、遺跡の一部を発見したのみに過ぎず、今後の調査により遺跡の全容は判明していくことと思われる。

#### 註

- 九州の官衙施設は8世紀後半に柱穴が1mを超えて、形状が方形となり、正方位をとる傾向がある。西垣彰博2017『九州の都府の空間構成』『都府城の空間構成』第2回古代官衙・集落研究会報告書
- 柏原町教育委員会2013『内構坪見遺跡概要報告書』、柏原町教育委員会2015『内構坪見遺跡3次』、柏原町教育委員会2019『内構坪見遺跡1次・2次』
- 柏原町教育委員会2018『阿恵遺跡』
- 柏原町教育委員会2017『仲原池ノ内遺跡』

# 図 版



図版1　遺跡全景（西から）



図版2 検査地東側試掘全貌、柱穴2検出状況(北から)



図版3 検査地東側試掘柱穴7検出状況(北から)



図版4 検査地西側試掘全貌、柱穴10検出状況(北から)



図版5 検査地西側試掘南側削平状況(北から)



図版6 第1号振立柱建物(西から)



図版7 第2号・第3号振立柱建物(西から)



図版8 東側柱穴(南から)



図版9 柱穴3,柱穴7(南から)



図版10 柱穴4,柱穴8(南から)



図版11 柱穴1土層a-a'(東から)



図版12 柱穴2土層b-b'(東から)



図版13 柱穴3土層d-d'(南から)



図版14 柱穴4土層e-e'(南から)



図版15 柱穴5土層f-f'(北から)



図版16 柱穴6土層g-g'(北から)



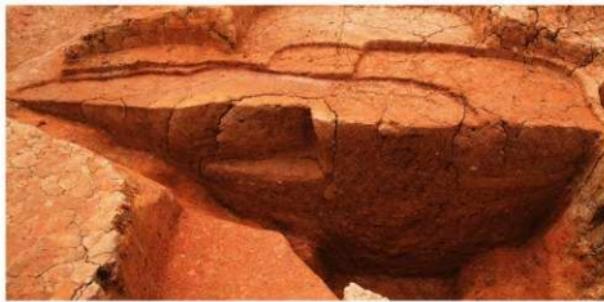
図版 17  
柱穴7 土層h-h' (東から)



図版 18  
柱穴8 上層l-l' (東から)



図版 19  
柱穴9 土層j-j' (東から)



図版 20  
柱穴10 土層k-k' (東から)

## 報告書抄録

あたりがな	はるまちひらばるいせき						
書名	原町平原遺跡						
シリーズ名	柏屋町文化財調査報告書						
シリーズ番号	第 45 集						
編著者名	高橋幸作						
編集機関	柏屋町教育委員会						
所在地	〒 811-2314 福岡県糟屋郡柏屋町若宮一丁目 1 番 1 号						
発行年月日	2019 年 3 月 29 日						
所収遺跡名	所在 地	コード 市町村 道跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
原町平原遺跡	福岡県糟屋郡柏屋町 原町一丁目 2124-4	403491 280241	33° 36' 42"	130° 28' 10"	2017.7.24 ~ 2017.8.18	約 110m <sup>2</sup>	共同住宅建築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
原町平原遺跡	官衙	奈良時代	掘立柱建物	上飾器	8 世紀後半の糟屋郡衙 の可能性		
要 約	<p>3 種の掘立柱建物を検出した。建物主軸方位は正方位であり、柱穴は 1 m を超える方形を呈していることから、官衙の建物と考えられる。出土遺物が鉄片であり、時期比定が困難だが、九州における同様の官衙建物は 8 世紀後半と考えられており、本遺跡の建物も 8 世紀後半と判断される。</p> <p>近隣に糟屋郡衙である阿恵道路が所在し、8 世紀後半の正倉は確認されるが、同時期の政庁は発見されていない。そのため、政庁は阿恵道路から別の地に移転していると考えられ、本遺跡が 8 世紀後半の正倉に関連する郡衙施設として有力と考えられる。</p>						

## 原町平原遺跡 柏屋町文化財調査報告書第 45 集

平成 31 年 3 月 29 日 発行

発行 柏屋町教育委員会  
〒 811-2314 福岡県糟屋郡柏屋町若宮一丁目 1 番 1 号 (柏屋町立歴史資料館)  
TEL : 092-939-2984 FAX : 092-938-0733

印刷・製本 株式会社 三光  
〒 812-0015 福岡県福岡市博多区山王一丁目 14-4  
TEL : 092-475-6271 FAX : 092-475-6274